

「日本（福井）の産業を支える人材育成」

福井商工会議所青年部（福井 Y E G）



福井商工会議所青年部（福井 YEG）の会員自らが、自分の職業・職種を紹介し体験する機会を提供することで、仕事の厳しさ、働くことの素晴らしさ、物づくり・サービスの面白さを伝える魂の授業であり、子どもたちに将来の仕事に対する「夢」の幅を広げ、更に、日本（福井）を支える人材育成をはかりたいと2005年よりスタートした企画です。また、参加する企業は、子どもたちの先生になることで、自分の仕事と企業に自信と誇りが増し、人材育成へとつながります。その結果、地域産業を支える活力のある企業活動へと結び付けることができます。4年間で2,500名の親子、延べ85企業が参加しています。

1. 福井商工会議所青年部の概要

(1) 福井商工会議所青年部（福井 Y E G）の状況

商工会議所青年部は、次代の地域経済を担う若手経営者・後継者の相互研鑽の場として、また青年経済人として資質の向上と会員相互の交流を通じて、企業の発展と豊かな地域経済を築くことを目的としています。活動の中心は、あくまでも企業経営の勉強の場であり、交流を通じて企業の発展を図るとともに、商工会議所活動の一翼を担うという理念のもとに、各地の商工会議所に設置されています。

福井 Y E G は、昭和 49 年 12 月に設立され、幅広い業種の方々が入会しております。福井の街づくりを考え、経済人としての人格・教養を身につけ、経営能力の向上と交流会などを通して会員相互の啓発・親睦を目的にさまざまな活動を続けています。

事務局所在地	福井県福井市西木田 2-8-1
設立	昭和 49 年 12 月
会員数	98 名（平成 20 年 9 月 1 日現在）
組織	会長 1 名・副会長 4 名・1 室 6 委員会
主な事業	例会（月 1 回）、フェニックスまつり参画、ふくい春まつり参画、さくら保全事業まちづくり活動、ボランティア活動、アントレ・キッズ事業ほか

2. 地域の状況

福井市は福井県の県庁所在地で市内を、九頭竜川、足羽川、日野川が流れ、西は越前海岸へ東は永平寺から奥越へと続きます。JR 福井駅を中心に商業・行政機能など各種の中核機能が集積しており、県都の顔にふさわしいまちめざし福井駅周辺整備を推進中。

人 口	270,627 人 (平成 20 年 9 月 1 日現在)
産 業	合織、人絹等の織物の長繊維織物、丸編ニット、トリコット、リボン、マーク等の細幅織物、レース、アパレル、紡績糸、合織糸等の繊維品を製造、全国でも稀な繊維総合産地を形成しています。 そのため、織布業、編立業、撚糸業、サイジング整経業、染色加工業、縫製業、紡績業、合織ファイバー製造業等の多種多彩な業種が集積し、流通を担う繊維商社の活動も活発で、産地の規模、技術力、商品開発力、品質等はいずれも、世界長繊維業界の中ではトップクラスに位置しています。
観 光	一乗谷朝倉氏遺跡、福井城址、養浩館庭園、鷹巣・鮎川海岸、国見岳森林公園、おさごえ民家園など
特 産 品	繊維、機械、眼鏡、羽二重餅、ソースカツ丼、越前ガニ、おろしそば、焼鯖寿など

3. 「おしごと探検隊 アントレ・キッズ」の概要

これまで子どもたちに対する教育は教科学習やスポーツが中心であり、体験型教育においても伝統産業や科学実験が大部分を占め、「職 = 仕事」に関する教育・体験は非常少ないのが現状です。この事業により、現在問題となっているニート対策の一環としても、小学生のころからのキャリア教育 = 仕事に関する教育が重要と考えます。「働くことは生きること」、そんな想いを実践している福井 YEG 企業が、仕事の誇りを紹介・体験できる機会を提供し、仕事に真剣な人間形成を目指します。

また、参加する企業は、子どもたちの先生になることで、自分の仕事と企業に自信と誇りが増し、人材育成へとつながります。その結果、地域産業を支える活力のある企業活動へと結び付けることができます。

4. 「アントレ・キッズ」のこだわり

(1) 「働く喜び」を育てる力

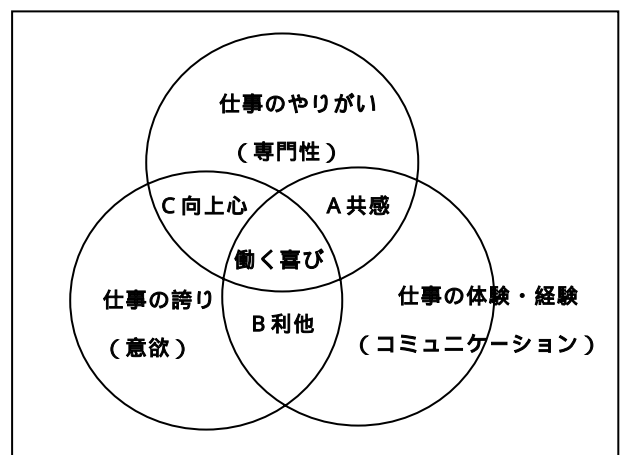
3つの企画ポリシー

・仕事の誇り (意欲)

この職業の意義、世の中で必要とされている理由がわかる

・仕事のやりがい (専門性)

この職業の大変な面、しかし、やりがいのある面がわかる個の職業 (職人、技師、店長資格士等) を紹介することで、働く事の意味を形成



・仕事の体験・経験（コミュニケーション）

子供達がわかる比喻や例えを交えた面白い体験ができる

3つの企画ポリシーを育てる3つの力

A：共感：すごい、かっこいい、面白い、厳しい

B：利他：家族や他人の喜ぶことを願う心

C：向上心：夢、希望

（2）対象

・小学生（4年～6年生）～中学生（1年生）とその父兄

・小中学生、PTA、育成会

基本的には、親子参加での体験教室

（講師派遣型の子どもたちのみでの授業、体験教室ではありません）

（3）実施時間

一つの探検時間 30～2時間 / 1～3種類のおしごとを組み合わせ実施

（4）特徴



地域密着の中小零細企業

地域に密着している中小零細企業の経営者が中心となり実施

父母、先輩として

企業人である前に父母として、地域の先輩として参加

探検費徴収

わずかであるが探検費を頂くことで、講師側と参加者側(特に親)の緊張感が大幅に増す

自己資金

運営費は、多少の自己資金が必要となる。しかし、これも社会投資活動として必要経費として考えることで継続ができる。ボランティアと考えると、真っ先に削られる経費となってしまいます。自己資金を使う緊張感にて取組への積極性が増す。

親子参加

働く意義を一番理解し、子どもたちに繰り返し話ができるのは親である。アントレ・キッズ参加で親に働くことのすばらしさを再認識して頂くことで、家庭でのキャリア教育のきっかけを作ることができる。

(5) アントレ・キッズの社会的意義

顔の見える商売 信頼・安心の社会

昭和の頃は、子どもたちは、近くの八百屋でお使いをし、酒屋さんがビール、サイダーと醤油を配達してくれるのを楽しみにし、学校の帰り道にある工場のおっちゃんが、「お帰り」と声をかけてくれました。しかし、現在、地域の八百屋さん、酒屋さんは減り、大型スーパーでお買い物、町工場も減り、身近な大人が働く姿を見る機会がなくなってしまう。アントレ・キッズ事業を通して地域で働く大人の姿を見せ、地域にある企業名を伝えることで企業として、大人として責任感を示すことができます。

また、人間はうそを付きます。しかし、子どもにうそを付ける人は、多くはありません。子どもたちの瞳は、大人のよどんだ心の部分を浄化します。結果的に信頼・安心な社会となっていきます。

中小零細企業の活性化

中小零細企業は、自信を失いかけています。グローバル化による仕事の減少に加え、容赦のないコスト削減要求。大手進出による商業エリアでの価格競争。人口減、地域格差による人口流出などによる商業エリア削減。これらの環境の中、多くの中小零細企業は、自信を失い、廃業へと追い込まれ、地域の空洞化が進んでしまいます。

アントレ・キッズ事業は、中小零細企業に自信を取り戻すための起爆剤となります。自分の仕事に誇りを持って、やりがいの気持ちを示すことで元気がでます。元気な中小零細企業こそが、地域を活性化させることができます。

ボランティア活動ではなく、社会投資活動

企業として、ボランティアでは、参加できない。むしろ、ボランティアではやるべきでないと考えています。我々は、この活動は、社会投資活動と位置づけ、お金ではない利益、すなわち、信頼、安心、人脈などを得る活動としています。

(6) 参加企業にメリットがあつてこそ生きる！

仕事を見つめ直す機会・自己啓発、社員教育

ほとんどの中小零細企業は、最終商品を作ったりはしていません。また、単に品物を売っているだけでもありません。そんな、中小零細企業が子どもたちに仕事の内容や本質を説明することは大変難しいことです。アントレ・キッズ事業に参加することで、自分の仕事の誇り、やりがいなど仕事の本質を見つめ直すことができます。

また、多くの仲間の経験により、説明能力、技術向上を果たすことができます。同時に社員教育の場ともなります。

キーワード 難しいことは簡単に！簡単なことは深く！深いことは面白く！

間接営業・市場潜在ニーズの獲得

アントレ・キッズでは、商品販売、会員募集、社員募集など直接営業は禁物です。人間は、気持ち的に「押されると引きますが、引かれると押したくなります」。商品販売や会員募集などで企業活動を積極的にしてしまうと、企業への信頼・安心どころか不安・不信感が増し、言葉が相手の心に響かなくなってしまう。自分の仕事の社会的使命を純粋に、一生懸命説明し、体験させることで、子どもたちや父母から純粋な疑問や反応が得られます。この疑問、反応を理解、解決することで市場での潜在ニーズを獲得することになります。

(7) 参加企業への負担のイメージを、チャンスに変える！

中小零細企業は、キャリア教育においては、メリットより負担の多いイメージがあります。社員の少ない中で、また、経営者自らが仕事をしないと仕事が回らない状況のなか、講師として派遣、テーマや実施内容を考え、準備する時間がもてないと感じ、スタートに躊躇する場合も多いのが実態です。

また、せっかくやる気になっても、要望がこななかったり、特定の企業や職種に集中してしまい、参加者、希望者が集まらないのも現状です。人気がある職種の場合でも、年に1、2回なら何とか実施できても要望が多すぎても対応できない不安があります。

そこで、アントレ・キッズ事業は、このデメリットを克服しメリットに変える取り組みをしています。

窓口の一本化・40社参加による負担軽減

福井YEGの事務局に窓口の一本化。企業は、直接依頼を受けることなく、事務局の受け付けでワンクッション置くことで、企業での事務手続き、地域での好印象の維持。(各企業にせっかくの依頼を断ることはしない、させない)また、口コミで直接会員企業での依頼を受けても、企業単独でできない規模の場合、企業での都合が悪い場合もあります。しかし、断るってしまうことでマイナスイメージが残ってしまう。アントレ・キッズ登録企業40社間で都合のよい企業、なじみのある地域企業が参加でき、参加できない企業、規模に対応できない企業の負担を軽減できます。つまり、企業の自分の都合に合わせ参加できる仕組みです。

メンバー間で情報共有化

初参加であってもメンバー間での情報の共有化、ノウハウの伝授、アドバイスの他、他のテーマを見ることができ、企画を立てやすい

未知なるおしごと」との出会い

アントレ・キッズ事業の趣旨は、「夢」の幅を広げることです。よって、自分の興味のある職種、仕事だけを体験するものではなく、「未知なるおしごと」に出会うことのできる場所です。よって、子どもたちや親の希望をとって参加して頂くのではなく、事務局サイドで決めた「おしごと探検」に参加して頂くことにしています。出会えた「おしごと探検」にて、新たな発見をすることができます。また、参加企業へ満遍なく参加者を分散することができます。

5. 「アントレ・キッズ in 酒生(さこう)小学校」が進化の始まり

福井YEG おしごと探検隊「アントレ・キッズ in 酒生小学校」が2005年11月6日(日)に行われ、初めての酒生小学校PTAとの共同開催となりました。当日は、親子参加、地域参加にて実施し550人の参加となりました。小学生に仕事を教えることは、自分の仕事の本質を考え整理するチャンスと11社20名の福井YEGメンバーも参加。「仕事について話す誇りと自信に満ちた姿」これこそ、子どもたちへの贈り物であり、商売繁盛の「鍵」となります。子どもたちの「歓声」と大人達の「うなずき」のウェーブがこの企画の意味深さを物語っていると感じました。参加した子どもたちは「仕事って大変だけど！面白そう」、大人達は「福井YEGのみなさんが真剣に熱心に仕事の話をする姿を見て、熱意を忘れかけた自分に気が付いた」など好評を得ることができました。

(1) スケジュール

日時 2005年 11月6日 (日曜日)

午前中 授業参観(生徒と父母を確実に集めるため、学校側と調整)

12:15 開会式

校長・PTA会長・YEG会長 挨拶
アントレ・キッズについての説明
各テーマの全体の紹介

12:35 「おしごと探検」開始

14:40 高学年 クイズの答え合わせ

15:00 終了

15:10 下校(保護者と共に)



(2) 企画内容

1テーマ 1教室とし、

- ・おしごと探検各40分・休憩、移動10分 ・計50分×2テーマ/人 = 100分
- タイムスケジュールを決めて順番に移動・親子でおしごと探検し最後にクイズに挑戦
- 高学年コース (3年生~6年生 生徒数 147人) 1テーマ=25人

1限30分	テーマ 1	テーマ 2	テーマ 3	テーマ 4	テーマ 5	テーマ 6
1限目	A	B	C	D	E	F
2限目	F	A	B	C	D	E
3限目	E	F	A	B	C	D

福井YEGと酒生小学校PTAの共同開催

- ・福井YEGが「おしごと探検」を実施
- ・酒生小学校PTAが運営を実施(司会、進行、教室誘導)
- ・酒生小学校とは、親子参加の比率を高めるための日時設定

テーマ

No	テーマ名		グループ	テーマと内容	教室
1	森		低学年	『山・木・住まい』を知ろう 宇佐美材木 山を育てる仕事、木の家を造る仕事の面白さを紹介。木の育ち方、木材となっても木は生きている事等を体験	図工室
2	コンクリート		低学年	縁の下の力持ち！？ これな～んだ？ 福井宇部生コンクリート（株） 縁の下の力持ちコンクリートがどのようにでき、どのような所を使われているか学ぶ。間近でミキサー車を見学	幼稚園 ホール から校門
3	菓子		低学年	所かられば、品変わる。手変われば、品変わる！ （株）甘泉堂 日本の四季を楽しむお菓子文化を体験、同じ材料でもいろいろなお菓子できる事を材料をなめて、こねて、食べて体験	家庭科室
4	コンサルタント		高学年	鉛筆会社のコンサルタントをしてみよう！（有）ビジコン 1本30円鉛筆しか売っていなかった会社に100円で売れる鉛筆を提案するゲーム形式体験	5年教室
5	水		高学年	世界のお水かんでい団（株）みずもと 地域に密着酒屋さんの仕事、世界のお水当てクイズ、飲食に関する正しい情報を身につけてもらい、「飲み物・水」を魅力、歴史、地理、自然を盛り込みながら体験	なかよし 教室
6	設計		高学年	家が出来るまでのおしごと探検 ワシダ設計事務所 家が出来るまでのおしごとを、実際の図面、写真、瓦、外壁、床材などに見たり、触ったりし体験、家1軒ができるまでの人の携わり、お金と時間の調査、探検	6年教室
7	看板		高学年	自分の将来の看板を作ろう！（有）フクイ工芸 自分の将来の仕事の看板をデザイン 優秀者には、シールにてプレゼント	4年教室
8	織物		高学年	エコ？失敗も成功させちゃうよ！ 山田商店 日本で作ったけれど失敗しちゃった織物は、日本で売れませんが、海外では、人気があります。その秘密を探ります。また、実際に生地を染めを体験	理科室
9	洗浄		高学年	縁の下のおそうじ屋さん”パイプきれい、きれい” （有）パイプ美人 建物の下、道路に埋まっている水道管、排水管等のパイプ洗浄を体験、最近機械操作を子どもたちが操作体験	校庭

(3) アントレ・キッズ企画の立て方

参加企業の方々に、アントレ・キッズ運営をよりスムーズに行えるように、これまでアントレ・キッズを運営してきた中で、重要と思われる事項をまとめました。心得を理解しチェック項目が多くなると、子どもたちの反応が良くなり、満足度が上がり間違いありません。失敗の中からできた、ノウハウの結晶です。

アントレ・キッズの心得

< 講師としての3つの心得 >

- ・ 企業人である前に、親、先輩であれ！
- ・ スマートな大人を示すな！一生懸命な大人を示せ！
- ・ 地域の誇りを示し、地域企業である事に徹しよ！

< 企業としての心得 >

- ・ 大手企業 : 世界的な視点から身近な素晴らしさを語ろう！
- ・ 中小零細企業 : 身近な喜びから大きな夢を語ろう！

< コーディネーターとしての心得 >

- ・ お願いするな！魅力を示せ！



子どもの達と一緒に楽しくためのチェックシート

1. 自分自身が楽しめる企画ですか（楽しんでいますが、楽しめそうですか）
2. この仕事は、すごいんだぞーと思わせる工夫をしていますか
3. 仕事の誇りを示す工夫をしていますか
4. 初めに子どもたちの心をつかむ工夫がされていますか（初めのインパクトが大事）
 - ・ 初めのあいさつは、まずは、講師から大きな声で！
 - 講師のテンション以上には、子どもたちのテンションはならない。
 - ・ はじめにコスチューム、音楽、声、アイテムなどで引き付ける
5. 続けて3分以上話を続けられない工夫がされていますか
 - ・ 低学年は、3分以上は、じっとしていない、飽きる
6. 子どもたちに、見る、触る、使う、想像させる工夫がされていますか
 - ・ プロの道具、完成品、製作途中品を見る、触る、使う、想像させる（怪我に注意）
7. 専門用語を使わない工夫、専門用語を解りやすく説明する工夫がありますか
 - ・ 英語や難しい言葉は、禁物
8. プロと素人の違いが分かる工夫がありますか
 - ・ プロの仕事を見せ、難しさを体験（コツを教えるとうまくいく方法など）
 - ・ タイムトライアルや競争など、ゲーム感覚で体験
9. 子どもたちが、積極的に参加する工夫がありますか
 - ・ クイズや質問などで、手を挙げさせたり、答えさせる
 - ・ 拍手や体操や歌をみんなで行ったり、いっせいにかけ声や挨拶をする
10. 体験を通して、仕事の喜びが厳しさを伝える工夫がありますか（達成感の演出）
 - ・ 達成したときに、大げさに一緒に喜び、ほめる演出（みんなで拍手など）
 - ・ 成功した時や参加（仕事）をした時は、報酬（シールやハンコなど）をあげる
 - ・ 失敗や間違った時に、失敗や間違いの大切さを実感させる演出
 - また、失敗しても褒め、間違ってもその挑戦を褒める事が大事

自社の技術、商品をどのように探検（授業）に活かすポイント

1. その技術、商品、サービスの歴史を紐解く
 - ・ その技術、商品、サービスは、いつの時代に生まれ現在に受け継がれているかを伝える
 - ・ その技術、商品、サービスが過去の偉人や歴史などと関連していることを伝える
 - ・ 技術レベルの移り変わり（技術革新）を伝える
2. 現在どのように、どんな所で役立っているかを伝える
 - ・ その技術、商品、サービスが身近な生活の中や、重要な施設や設備などで使われていることを伝える
 - ・ その技術、商品、サービスにより、どんな人が喜んでいるかを伝える
3. その技術、商品、サービスの夢を伝える
 - ・ その技術、商品、サービスは、将来こうなるといった大きな夢を伝える。
4. 学校の授業で習う、理科、算数、国語、社会などの関連性を伝える
 - ・ その技術、商品、サービスの使用方法の原理
 - ・ その技術、商品、サービスを作る過程で使用されている道具の原理
 - ・ その技術、商品、サービスに必要な知識とは！何かを伝える。
5. その技術、商品、サービスのグローバル性を示す
 - ・ その技術、商品、サービスの材料、設備は、海外から輸入されていることや、販売が海外でされていることなどでグローバル性を示し、英語やコミュニケーション力の重要性を伝える。

おしごと探検運営での注意事項

1. 創作物は、自分のものではなく、大切な人のために作るようにする
 - ・事とは、誰かに喜んでもらうためにするものである。
 - ・働いた報酬は、作ったモノではなく、それを受け取った人の喜び、感謝の言葉である。 仕事の本質を教える 仕事のやりがいを伝える
2. おみやげは、過剰にしない。
 - ・おみやげを多くすると、企業側の経費的負担が大きくなり活動が続かなくなる
 - ・おみやげを多くすると、モノで釣るイメージが付く
 - 子ども、親に物理的欲求ではなく、情緒的欲求を満たすことを心がける。
3. 危険な事、危険な作業を、正確に教え、安全にトライできるようにする。
 - ・手袋、保護メガネなどの装着が必要でないかを把握する。
 - ・臭い、音、にも注意を払う
 - ・危険な作業でも、手順を踏めば安全な作業としてできることを学ばせる。
4. 企業PRは、過剰にしない。
 - ・企業、商品のPRではなく、仕事の内容、姿勢、考え方を伝える
 - ・直接的な営業活動、企業活動はしない。(商品販売、会員募集、社員募集)
 - 企業名は、はっきり、何度いってもかまわない。言うことで、責任が増します。
5. あいさつに始まり、あいさつで終わる(感謝を忘れずに)
 - ・親子で、協力しあった事に対し、互いに「ありがとう」の感謝のお礼を言うようにうながす。
 - ・講師は、子どもたちと親に、参加して頂いた事に対し感謝の気持ちを示す。
 - アントレ・キッズは、してあげている活動ではなく、させて頂いている、参加頂き、講師側がよい経験をさせてもらいながら勉強させてもらっていることを示す。
6. 最後に、親子で仕事に付いて話し合うようにうながす(会場で、または、帰ってから)
 - ・親の仕事に付いて興味を持たす。
 - ・親が、子どもに自分の仕事に付いて話す機会を提供する。(雰囲気を作る)
 - 子どもたちに親に仕事に付いて問いかけるポイントをアドバイス
 - どんな仕事をしているの?(仕事の内容)
 - 仕事で自慢できることって何?すごい所は何?(仕事に誇り)
 - 仕事をしているやりがい(嬉しさ)を感じる時ってどんな時?(仕事のやりがい)

(4) 地域・家庭との関連性と効果・評価

酒生小学校 先生のコメント

このたびのアントレ・キッズの試みは、子どもたちにとってとても意義深いものだったと思います。「世の中にはこんな仕事があるんだ。」「こんな工夫をしながら仕事をしているのか。」などという新しい発見を、体験を通してすることができたからです。また、今回紹介された仕事の中には、子どもたちが普段の身近な生活の中であまり意識せずに接しているものもあり、「こんな風に生活に役立っているのか。」といった生活との関わりも感じ取ることができました。これからの職業観を形成する上でとても有意義な取り組みだと思います。

参加父母のコメント1

家に帰って子どもに感想を尋ねたところ、約束した時間に必ず品物を納めないといけないことや、お客さんへの思いやり、それから一緒に働く仲間への心遣いの大切さなど、子どもなりに話してくれました。このような企画が行われるまでに多くの方のご尽力があったのことに感謝しております。私たち両親の仕事に対する思いや自分の将来について考えるよい機会であったと思います。

参加父母のコメント2

アントレ・キッズはとても充実した行事だったと思います。2人の子どもたちは帰ってくるなり、自分が今日初めて見たり知ったり、体験したことをどんどん話してくれました。その場で見て体験したことは教室で机に向って先生方が教えてくださるより何倍も記憶に残っていると思います。こういういろいろなことを知り、自分の知識となることは何よりの勉強だと思いますし、そんな子どもたちを私はたくましく感じました。私は、勉強は頑張れば一人でもできると考えているので、家庭では教えてあげられない体験をさせていただいたことに感謝しています。

子どもの達の感想

アントレ・キッズでは、私の女王は、コンサルタント・水・設計に行きました。最初はコンサルタントに行きました。そこで、100円で売れるえんぴつを4班くらいに分かれ考えました。私の女王は「機械えんぴつ」を考えました。次は水にいき、水の秘密を教えてください。イタリアの水を飲みました。たんきんできちんとおいしくなりました。最後は設計にいき、家が作られる様子を絵で見ました。私は3つの仕事の体験をしてどの仕事にも工夫やアイデアがあることが分かりました。私も、将来仕事を選ぶ時は、やりがいのある仕事にしたいです。



仲間を増やすためのアフターホローと展望

アンケート、感想文は、アントレ・キッズの中でも大きな意味を持っています。また、以下の活用を踏まえ、アンケート、感想文依頼時は、使用許可、掲載許可を得ることが重要です。（子どもたち、父兄の感想などは、原則、氏名を伏せて掲載）

評価結果を踏まえ、実施結果を次回へ活かす。

子どもの感想文は、純粋で正直です。面白いモノは、面白く。つまらないモノは、つまらないと正直に表現されます。その結果を踏まえ、次回のアントレ・キッズに向け見直しを行っています。子どもたちが、分からなかった、つまらなかったということは、十分自分たちが、理解できていないのではないか？説明の仕方に問題があったのではないか？本質の説明ができていなかったのではないか？と多くの気づきを得ることができます。その気づきが、仕事の考え方、仕事の社内での教え方を見直すヒントにもなります。

感想文を社内で回覧、掲示、社内報、ホームページ掲載

感想文を参加企業内で、回覧、掲示、社内報に掲載することで、アントレ・キッズに参加していない社員が会社の活動を理解することができます。また、興味を示し、積極的な参加を促すこともできます。また、お客様が見える環境での掲示、ホームページでの掲載にて、社外へ社会貢献活動をアピールすることができます。お客様は、積極的にアントレ・キッズで、キャリア教育に参加している企業の姿を見て、信頼、安心の企業であることを理解して頂けます。

メディア（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌）への情報提供

多くの参加企業が増えれば、それだけ、多くの成果を出すことができます。増えるためには、参加した企業、子どもたち、親、学校、地域の満足感がなければなりません。アフターホローとして最後に大事な事は、メディアに興味を示してもらい、このアントレ・キッズの活動を広く伝えてもらいことで、参加企業を増やすことにあります。メディアに頼んで取材をしてもらうのではなく、メディアが取材したくなる情報を提供する。参加企業を頼んで集めるのではなく、参加したくなる魅力で集める。アントレ・キッズを継続、発展するためには、今後も変化が大切です。

6．新たなる挑戦に向けて

（1）アントレ・キッズの進化

アントレ・キッズは、ニーズに合わせ様々なパターンを実施し進化してきました。最初は、福井YEG一会員の企業から始まり、福井YEGの仲間での開催。そして、PTA、学校との共同開催、地域でのイベントで地域団体、企業との共同開催、ならに、中学生自身が企画をコーディネートしての開催、県外NPOへの協力など、ニーズに合わせ、進化、発展してきました。

単独企業開催型（個別企業事業所内で実施）

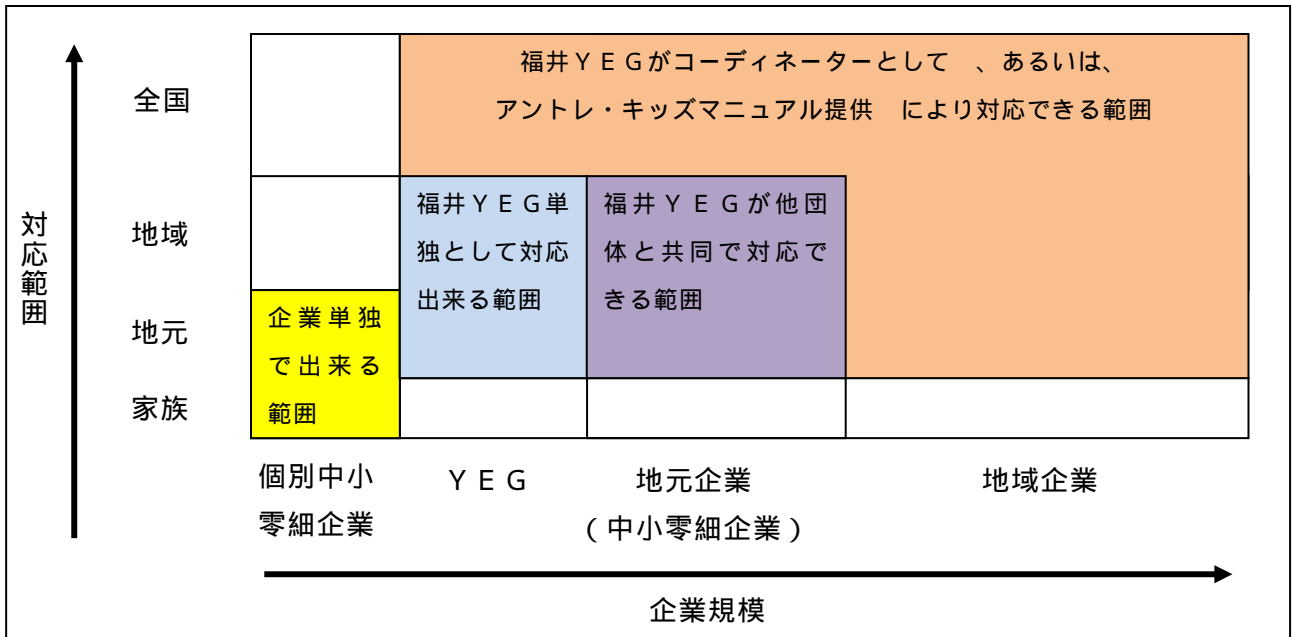
イベント協力型（他団体のイベントに参加協力）

イベント主催型（YEGが主催し、会場を借りて、複数の企業がブースを作り実施）

YEG・生徒共催型（中学生自身がアントレ・キッズをコーディネートし、YEGが企画を実施）

YEG・PTA共催型（学校にて、PTAの協力へ経て実施）

Y E G・地域企業（地域団体）共催型（地域にて、地域企業、団体の協力へ経て実施）
 コーディネート型（Y E Gがコーディネーターとなり、地域企業と共に実施、開催）
 アントレ・キッズマニュアル提供型（マニュアルを提供し、他団体、企業独自で開催）



（２）アントレ・キッズマニュアルによる仲間づくり

そして、2008年度には、「アントレ・キッズマニュアル」を作製し、福井県、NPOなど各種団体へ提供し、マニュアルによる仲間づくりを進めています。マニュアルに活動第一段が、「えきまえアントレ・キッズ」です。

（３）えきまえアントレ・キッズ実施への経緯

これまで、様々な形で「アントレ・キッズ」を実施し、多くの子どもたちに仕事の厳しさ・働く事の素晴らしさ・面白さを伝えてきました。また、福井Y E G企業内でも、社会投資活動、スキルアップにも有効な手段として認識、定着されてきました。

しかしながら、アントレ・キッズがより広い地域に広がり、より多くの人間（ひと）を巻き込み、より多くの子どもたちに仕事の厳しさ・働くことの素晴らしさ・面白さを伝えるためには他団体との連携も必要であると考えます。また、アントレ・キッズを広く浸透させていくためには他団体が主体となつてのアントレキッズが開催できるシステムが必要なのではないかと考えます。

今回、「まちづくり福井（株）」側がアントレ・キッズの趣旨に賛同いただき、より現場に近い形で数多くの職種が集まる「駅前」の地で、子どもたちに貴重な体験をしてもらうと同時に、将来の選択の幅を広げてもらいたいという思いが一致し、まちづくり福井側からの依頼という形で実施にいたりしました。

（４）共同開催で強みを活かす

今回福井駅前というより現場に近い形での実施ということで、福井Y E Gの持つノウハウと、まちづくり福井側が持つネットワークをうまく融合させた形で、準備を進めていきました。参加企業の募集、各店舗連絡調整に関してはまちづくり福井側に一任し、福井Y E Gは各参加企業へのア

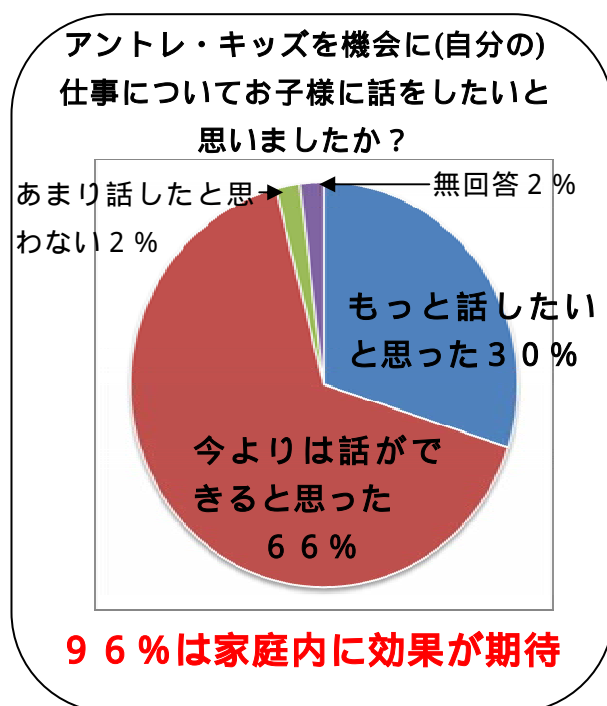
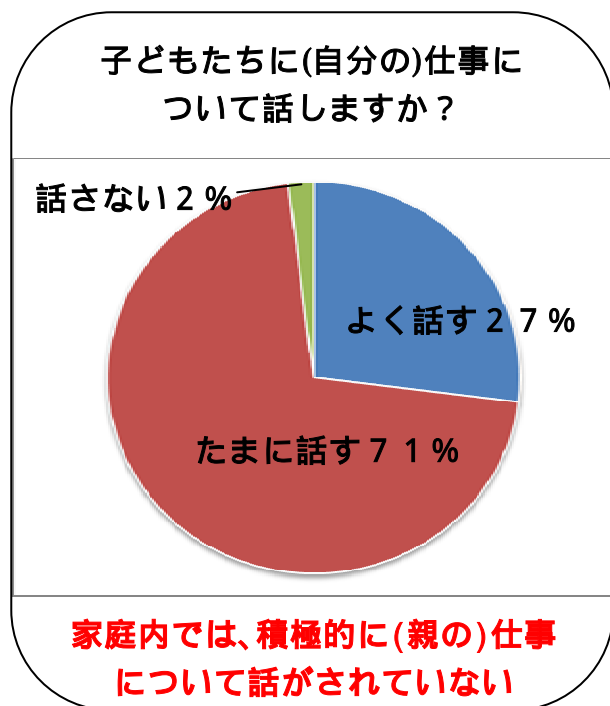
ントレ・キッズの趣旨の説明や、授業の進め方などをマニュアルを元に説明を行うなど、双方の強みを活かし準備を進めていきました。また、頻繁に打ち合わせの機会を設け、情報の共有化、課題に対する検討を綿密に行いました。

(5) えきまえアントレ・キッズの成果

その結果、子どもたちが、実際のおしごとの裏側を体験し、お客様と接することでより、おしごとの本質を肌で感じることができました。企業側は、実際のお店での体験を通し、作業の安全性、利便性など、より働きやすい環境を考えるきっかけとなった企業もありました。また、親は、子どもの日頃の表情とは違う姿を見て、頼もしくなると共に、自分(親)の仕事についても積極的に話すことの大切さを再認識されていました。また、親子で体験したお店で買い物をするなど、「えきまえ」への愛着も増しておりました。

今回の「えきまえアントレ・キッズ」は、キャリア教育としての意味合いにプラスして、地域企業の活性化、地域経済そのものの活性化へと結びつく、大きなきっかけを生むことができた活動へと進化していきました。

保護者アンケート結果



(6) アントレ・キッズの今後

アントレ・キッズの念意(おもい)があればこそ、受け継がれる精神

身近な所で、(町内、地域)、身近な仲間と(社員、友人)、身近な人たちのために、(家族、後輩)、身近な地域と仕事の誇りと夢を添えて伝えよう！

そして、いつしか、広い地域で、多くの仲間と、地域と時間を越えた人たちのために、日本の文化と仕事の誇りを、夢と歴史を添えて伝えたい！